

令和5年度認定

計画名	46 北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画
-----	--

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R5			R6			R7			R8			R9		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
(1)施設（北海道博物館及び北海道開拓の村）来訪者数（人）	198,000	234,841	119%	211,000	203,394	96%	224,000			237,000			250,000		
(2)開設（北海道博物館及び北海道開拓の村）来訪者数（インバウンド）（人）	22,500	24,753	110%	25,000	25,520	102%	27,500			30,000			32,500		
(3)北海道博物館の利用者満足度（%）	67	71.0	106%	70	69.3	99%	73			76			79		
(4)北海道開拓の村の利用者満足度（%）	75	75.9	101%	77	84.2	109%	80			83			86		
(5)北海道博物館の公式ウェブサイトPV数（件）	300,000	413,105	138%	350,000	293,931	84%	450,000			460,000			470,000		

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

(分析)
・全体的に目標値を達成しているが、(1)と(5)において、R6年度は下回った。内訳では、博物館の数値が下がっている（「開拓の村」は微増である）。（3）もやや下回った。
・(1)と(5)については、R5年は、博物館においてマスコミとの共催による国宝・重文資料を多数展示し、新聞等に多くの広告を掲載したが、R6年度は、道単独開催でマスメディア効果が低下した（薄れた）こと、加えて、諸物価高騰のために入場料金の値上げを行ったことや、施設アクセスにかかる公共交通の値上げがあったこと等により、博物館へ足を運ぶといった意識が低下したこと、また、これに伴う興味・関心の低下等が、入場者数及びPV数の伸び悩みの要因として考えられる。
・一方で、文化観光拠点推進事業を開始した令和5年度後期と、令和6年度の後期を比べた場合、(1)(5)のR6年度の実績は、R5年度と同じかもしくは増加しており、種々の取り組みの成果があると考えられる。
(評価)
・概ね目標を達成している。今後、誘客・認知度の向上、利用者満足度の向上に引き続き努める。

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R5	R6	R7	R8	事業類型ごとの実績額
1-①	デジタル化による利活用を通した収蔵資料の魅力発信事業【博物館】【開拓の村】	・博物館資料のデジタル化 ・博物館資料管理システム登録によるデジタルアーカイブ公開 ・博物館ウェブサイトの改修	・博物館資料のデジタル化 ・博物館ウェブサイトの改修			13.8百万円
1-②	北海道の自然・歴史・文化の魅力を伝える、博物館の展示磨き上げ事業【博物館】	・総合展示室（「恐竜・古生物」、「北海道の自然」）展示改修	・総合展示室（大正、昭和時代の生活文化）展示改修			
1-③	建物の魅力向上【開拓の村】	・開拓の村建物（小樽新聞社）の展示整備	・開拓の村建物（旧岩間家農家住宅）の展示整備			
1-④	開拓の村の建造物及び展示資料の制作・修復“技術”の理解促進事業【開拓の村】	中止 （事業期間内の完了が見込まれないことから断念）	延期 （補助申請見送り）			
1-⑤	博物館と村の魅力を深めるための、歴史・文化を物語る素材収集事業【博物館、開拓の村】	・標本及び展示品調査、デジタル化素材の調査	－ （自己負担で実施）			2.2百万
2-①	インバウンドに北海道の魅力を伝えるための展示多言語化事業【博物館】【開拓の村】	中止 （事業期間内の完了が見込まれないことから断念）	北海道博物館、開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館の英語解説文作成			
2-②	三次元点群データを活用した建物の魅力を深め伝える事業【開拓の村】	－	開拓の村三次元点群データの公開・閲覧用データ作成			
3-①	野幌森林公園の野外展示、アクティビティ整備事業【野幌森林公園全域】	中止 （整備力所を再道定する必要があるため断念）	・野幌森林公園のPR素材撮影			0.1百万
4-①	北海道博物館の魅力をもち帰っていただく、オリジナル商品の開発【全体】	－	中止 （補助事業審査段階で不採択）			0.0百万
4-②	北海道博物館の魅力を味わっていただく、飲食メニューの開発等【全体】	－	中止 （4-①に併せ事業内願見直し）			0.0百万
5-①	地域との連携による〈厚別・江別エリア〉の情報発信強化事業【全体】	－	中止 （4-①に併せ事業内願見直し）			0.0百万
6-①	北海道立総合博物館における公衆無線WI-FI環境整備【全体】	博物館、野幌森林公園自然ふれあい交流館のWI-FI環境を整備	－			1.6百万
6-②	村と森の快適性の向上を図る施設整備【北海道立総合博物館全体】	中止 （冬季作業に係る人材確保不可能）	－			0.0百万
6-③	開拓の村を回遊する拠点となる、公開型修復工場の整備事業【開拓の村】	－	中止 （資材・人件費高騰により整備内容を見直し）			0.0百万
各年度ごとの実績額→		6.7百万	11.1百万			17.8百万

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析)
・事業1、2、6は、概ね順調に進捗している。
・事業3、4、5は補助事業審査段階で、事業効果に期待できないとする理由から不採択となっており、今後の事業構築等に課題があると認識している。
(評価)
・事業1、2、6は、概ね計画どおり進捗しており、引き続き、より効果的な成果をおさめることができるよう、実施対象・実施方法を検討して進める。
・事業3、4、5については、補助事業交付申請段階で、より効果的な事業となるよう検討する必要がある。

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名	北海道立総合博物館	
要件		
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・北海道博物館の総合展示については、対象とするテーマ・コーナーを絞り、段階的に展示の磨き上げを実施。北海道開拓の村の建物については、建物の立地や性格を踏まえて対象とする建物を定め、順次、内部展示改修等の磨き上げを実施。	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・文化資源のデジタル化を進め、ウェブサイトを通した発信（ウェブサイトの改修を含む）を実施。	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・R6年度にネイティブのライターによる英語解説を作成する等、インバウンドの関心に応える展示解説文を整備し、今後の多言語化のベースとなる事業を実施。	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・魅力を発信するに当たっての解説や紹介を打ち出すに当たり、観光動向の情報や知見を得て事業を実施。	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・北海道全体の観光動向から見た文化観光の推進に関して、データを徴取。	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P I の設定・P D C Aサイクルの確立	・本事業の実施目標に即した評価・検討のほか、北海道全体の観光動向から見た効果検証、改善策等を検討する。	

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
（公社）北海道観光機構	当機構では、2024年6月に、2030年の北海道観光のあるべき姿として、「グランドデザイン」を策定。北海道を世界をリードする観光地としていくための戦略のひとつに、観光インフラの強化（外国人観光客受入環境整備）を掲げている。 コロナ禍明けの2023年下期より、FITインバウンド観光客（特に欧米豪）が多く訪れており、北海道の歴史や文化を多言語対応でわかりやすく解説することで、理解促進が高まり満足度の向上に繋がります。また、WIFIの整備など来場者の利便性にも大きく寄与しています。 引き続き、北海道の自然・歴史・文化がまるごと体験できる総合博物館として、持続可能な文化資源のデジタル化と多言語化に期待します。

⑦今後の改善の方向性

- ・文化資源の磨き上げや解説の充実等（事業1，2，6）については、これまでのところおおむね進めており、目標値も達成している。引き続き事業の効果的な実施につとめていく。
- ・利便性・回遊性向上や経済的好循環につながる事業（事業3，4，5）については、十分に実施できないままR7年度において不採択となったものが多く、文化観光推進事業の本旨からみると、所期の目的を達成するために事業の計画や進め方の工夫が必要。いま道においても当エリアの活性化事業に取り組んでおり（レンタサイクル導入、キッチンカー誘致の試行等）、これらを活かすことも検討しながら事業計画の再構築に取り組むことや、ウェブサイト・SNS等を通じたプロモーションの強化等も含めた事業計画の再構築を図る。
- ・事業6については、もっとも大きな事業である公開型修復工房の整備があり、関係各方面との調整を図りつつ進めて参りたい。